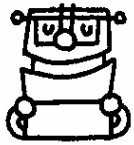


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /  
人と動物の体 / 理解シート

せぼね

## 背骨をもつ動物の、骨のつくりのちがいを教えて



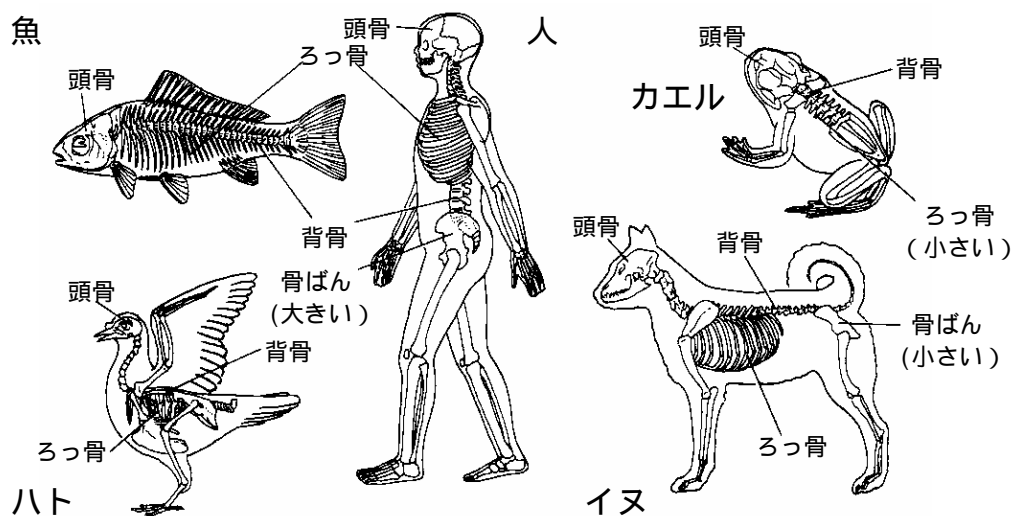
魚 鳥 ネコ、人などをくらべると、基本の骨は共通しているけど、生活のし方に合わせて少しずつ変化しているのさ。

ほとんど共通なのは、<sup>とうこつ</sup>頭骨、背骨、ろっ骨

背骨をもつ動物は、背骨、頭骨、ろっ骨は共通していますが、手足はそれぞれの動物の生活のし方でちがってきています。

魚は手足に当たる骨が、泳ぐためのひれになり、鳥は手が空を飛ぶつばさになっています。カエルは、ジャンプしたり水をけったりするため、後ろ足が大きくなり、強気に発達しています。サルや人の手は、指がのびて発達していますが、イヌやネコは小さく指も短いです。かかとの骨なども、二本足で歩く人は大きいけれど、イヌやネコはかかとを地面につけないで歩くので、小さくなっています。

呼吸のとき、<sup>こきゅう</sup>胸を<sup>むね</sup>広げたりせぼめたりする役目の<sup>はい</sup>ろっ骨は、肺で呼吸をする鳥、イヌやネコ、人などで大きく発達し、肺呼吸が弱いカエルなどでは小さいです。



<魚、ハト、カエル、人、イヌの骨のちがい>